

教育と文化



『思いやりの気持ち』を行動に

「共働き家族のワーク・ライフ・

バランスを目指して」

● 問合先 男女協働推進課

男女協働推進係 ☎ 2115

女性の愛情の配分がライフステージごとにどのように変化しているか知っていますか。この変化について、『イクメン』の名付け親ともいわれる株式会社東レ経営研究所の渥美由喜さんが調査され、結果をまとめたグラフは『女性の愛情曲線』といわれています。

結婚直後の女性の愛情の配分のトップは『夫』ですが、出産前後は『子ども』への愛情が急増しトップになり、それに反比例して夫への愛情は急減します。その後、夫への愛情を徐々に回復する女性と、低迷を続ける女性に二極化され、その要因は、産後の夫の育児協力の有無が大きく影響しているようです。調査では、乳幼児期に『夫と二人で子育てをした』という女性は夫への愛情を回復し、『一人で子育てした』という女性は夫への愛情が低迷したままという結果になっています。近年では、共働き世帯が増

加しており、平成27年国勢調査では夫婦のいる一般世帯の47・6%を占めています。夫婦が仕事を続けながら、家や育児を両立させるためには、夫婦のどちらかに負担がかかりすぎないように、交代で子どもの保育園送迎をしたり、時間に余裕がある方が洗濯や食事の準備をしたりするなど、夫婦がお互いを思いやり、助け合うことが大切です。仕事と家事や育児の両立は、夫婦だけで頑張りすぎずに、時には、職場の仲間や両親に相談したり、子育てサービスを利用するなど、周囲のサポートも必要です。夫婦が一緒に家事や育児をすることで夫への愛情も回復し、夫婦円満につながります。また、『子は親の背中を見て育つ』というように、夫婦のお互いを思いやる気持ちは、子どもの成長にも大きな影響を与えます。『思いやりの気持ち』を行動に移しましょう。

郷土の文化財

伊万里湾の歴史シリーズ①

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 3186

腰岳の黒曜石と伊万里湾

今回からのシリーズでは、伊万里港開港50周年を記念し、伊万里湾の歴史について紹介していきます。

人類が日本に渡来した旧石器時代の約3万5000年前から縄文時代が終わる約2300年前までの間、良質な石器の材料として盛んに利用されていた腰岳の黒曜石。この黒曜石を求め、多くの人々が各地からやってきていました。

旧石器時代は海水面が現在よりも約150m低く、伊万里湾は陸地化していたため、陸路のみのアクセスだったと考えられています。

一方、6000年ほど前の縄文時代は、現在より海水面が5m高く、海岸線は現在より内陸部へ進出していました。このため、船で腰岳のふもと近くまで接近

することもできました。

腰岳は独立峰であり、美しい円錐形の富士山のような姿をしています。腰岳に黒曜石を採取するためにやってくる人々は、この特徴的な山を目指して船を進め、伊万里湾にやってきたことでしょう。



→腰岳山頂から伊万里湾を望む